

第96回全国高校サッカー選手権大会 千葉県大会

マッチレポート

【準々決勝】

流通経済大付属柏 VS 市立習志野

お互いに4-4-2の中盤はフラットのフォーメーション。初戦の硬さがある流通経済大付属柏はなかなかボールが収まらず習志野にペースを握られる。習志野の長短織り交ぜたパスになかなか対応することが出来ずに、CKから失点してしまう。すぐさまロングスローから同点に追いついた流通経済大付属柏は徐々に本来のリズムを取り戻し、ボールホルダーに対して前線から素早いプレッシャーをかけ相手の判断を奪っていく。攻撃では左SBの②近藤、CB⑤関川からの右SHの⑩加藤へのロングボールや、アタッキングサードでの相手のギャップを突く攻撃で習志野ゴールに迫る。前半終了間際に右サイドを攻略した⑭熊澤のクロスをニアサイドでフリーとなっていた⑩菊池がトラップして冷静に流し込んで前半を折り返した。後半に入るとお互いにトップ下を置く4-5-1のフォーメーションとなり、序盤は流通経済大付属柏が⑩菊池を起点に細かいパスワークや途中から入った⑦鬼京のドリブルで習志野ゴールを脅かすが得点には至らない。対する習志野は⑨白井をターゲットにし、⑦山下のサイド突破でチャンスを経々となく創り出す。ラストパスの精度に欠け、シュートまで持ち込むことが出来ない。最後まで粘り強く習志野の攻撃を跳ね返した流通経済大付属柏が準決勝進出となった。

(県立船橋啓明高等学校 上芝 俊介)

八千代 VS 検見川

八千代は1回戦八千代松蔭にPK戦の末5-4で勝利し、2回戦で暁星国際に2-0で勝利し準々決勝へと進出した。検見川は、1回戦若松に3-0、2回戦翔凛に延長1-0で勝利し準々決勝へと進出した。

お互い1-4-4-2のシステムを採用し、両チーム守備陣形をコンパクトにしたサッカーを展開した。八千代はシンプルにDFラインから相手の背後にボールを落とし、左サイド⑩稲葉の裏抜けや②岩井のオーバーラップから攻撃のきっかけをつくる。対する検見川はしっかりと守備組織を構築し⑤福岡を中心とした4バックがヘディングで弾き八千代に前進を許さない。ボールを奪うと⑨岡野や⑱須藤を走らせコンビネーションを活かしたサイド攻撃からゴールに迫るシーンが見られた。膠着状態が予想されたゲームは一瞬の隙をついた八千代が先制点を奪うと、その後は八千代の切り替えの速さや決定率の高さが際立つ試合となり得点を重ねた。検見川も高い位置からのプレスに切り替えショートカウンターでゴール前まで迫るも得点はできず、八千代が6-0で勝利した。

(県立千葉東高等学校 三神 弘輔)

幕張総合 VS 日体大柏

幕張総合は1-4-4-2、日体大柏は1-3-4-2-1。序盤は幕張総合がシンプルに前線にパスを送り⑧を起点に攻勢に出るが決定機は作れない。徐々に日体大柏が攻撃に出る時間が増える。サイドを起点に攻めCK、FKを獲得し決定機を作り出す。前半30分に左サイド⑥からのクロスのかぼれ球を⑮が押し込み先制。ゲーム展開が落ち着き、日体大柏がボールを保持する時間が増え、DFラインからビルドアップし攻撃の糸口を探す。後半に入り幕張総合は追いつこうと運動量を増やして相手ゴールに迫るが前線⑧⑨にボールが入っても関わりが薄く、流れを引き寄せることができない。逆に日体大柏が⑨、⑩を投入し攻撃のリズムが変わり、後半終盤に立て続けに追加点を取り、試合を決定づけた。

(県立船橋北高等学校 高橋 剛)

市立船橋 VS 中央学院

中央学院は攻撃時1-4-5-1で守備時1-5-4-1、市立船橋は攻撃時1-4-5-1で守備時は3トップ気味になり中央学院の③柏木④大嶋の両CBから配給される⑦山内⑩永井のパスコースを切り、プレッシャーをかけに行く。中央学院はドリブル、ショートパス、スイッチなど多彩な攻撃バリエーションで市立船橋の守備をかいくぐる。味方との距離を近くし、失ったら直ぐにボールホルダーに対してプレッシャーをかけに行く。市立船橋は④岸本⑤余合の両CBの脇に⑦井上⑮町田が落ち、両SBが高い位置を取り、前線の⑨有田⑩佐藤の空けたスペースを狙う。その流れから⑩福元のみドルシュートが決まり市立船橋が先制する。後半、ドリブル、ギャップを突くパスで市立船橋ゴールを脅かすが、シュートを打てずに得点には至らない。対する市立船橋は1-4-4-1-1にポジションを変え、相手のドリブルに対してじっくり粘り強く対応する。CKから追加点を奪った市立船橋が準決勝進出となった。

(県立船橋啓明高等学校 上芝 俊介)

【準決勝】

流通経済大付属柏 VS 日本体育大学柏

流通経済大付属柏は1-4-4-2、⑤の関川がヘディングを競る相手のセットプレーなどでは④の宮本がそのカバーにディフェンスラインまで入り5バック気味になる。対する日本体育大学柏は攻撃時1-3-4-2-1、守備時は両サイドが3バックの隣に落ちて5バックとなり、しっかりと③白木を中心に守備ブロックを形成する。流通経済大付属柏は⑩菊池を中心に細かいパスワークやドリブルで相手の守備ブロックをかいくぐろうとする。対する日本体育大学柏はワントップの⑭松田にボールを集め、⑨高橋、⑮上妻が関わり、3人の関係で攻撃を仕掛ける。お互いにリ

スクを最小限にし、相手の良いところをつぶし合う緊迫した前半となった。後半に入り、流通経済大付属柏は1-4-4-1-1にフォーメーションを変え、途中出場の⑱トベをターゲットにし、サイド攻撃を繰り返し、チャンスを作り出す。日本体育大柏は守備に多くの時間を割かれるが、前3人のカウンターで相手ゴールを脅かす。攻める流通経済大付属柏、守る日本体育大学柏の流れは変わらないが、サイドを突破されても、中で跳ね返し、シュートブロックをして何とかしのぎ切る。PKでは2本外した日本体育大学柏に対してすべて決めた流通経済大付属柏が決勝進出となった。

(県立船橋啓明高等学校 上芝 俊介)

八千代高校 VS 市立船橋高校

八千代は1-4-4-2の布陣で全体をコンパクトな距離感を保ちながら、リズム良くボールを動かし突破口を見出す。守備では狭いエリアを作り、プレスバックから激しいプレッシャーでボールを奪い攻撃に繋げていく。先制は八千代高校。左サイドからのスローインから⑯小堀がドリブルで相手を引き付け、2列目から飛び出してきた⑦正田がミドルシュートを決める。一方、市立船橋は1-3-4-2-1の布陣で、⑩福元を起点に2シャドーが前を向いた攻撃を仕掛ける。時折、⑦井上がDFラインのビルドアップに参加し、攻撃を組み立てる。左サイド②杉山が逆サイドまでポジションを移動し、ペナルティエリアの外からミドルシュートで同点とする。追いついた後、ボールを左右に動かし中央のフリースペースで⑫金井が⑩福元へ縦パスを送る。タイミングよく抜け出した福元は落ち着いてダイレクトシュートを決め、前半で逆転する。後半、両チームとも交代メンバーを起用しながら追加点を狙う。八千代高校は⑭青木と高さのある⑬奥貫を投入し前線からのプレッシャーを強めていく。市立船橋は⑳郡司を投入し、スピードあるドリブルで相手守備陣を揺さぶっていく。厚みのある攻撃を継続させる市立船橋をしのいで、②岩井のインターセプトからカウンターで⑲中山のシュートシーンを作りだすが枠を捉えきれない。最後まで攻撃を緩めず、ゴールに向かい続けた市立船橋高校が勝利し決勝に進んだ。

(県立流山おおたかの森高等学校 佐藤 智也)

【決勝】

流通経済大付属柏 VS 市立船橋

流通経済大付属柏は4-4-2、市立船橋は3-4-2-1のフォーメーション。序盤ペースを握ったのは流通経済大学付属柏。⑳安城をターゲットにロングボールを供給し、セカンドボールを拾うことによってサイドに展開し左サイドの⑦鬼京のドリブルで試合を優位に進める。対する市立船橋は、時間が経つにつれてペースを取り戻しボール保持の時間が増える。3バックで前線の動きを伺いながらボールを動かし、⑫金井や⑮町田のボランチにボールを供給しようとするが、流通経済大学付属柏の前線の早いプレッシャーによって潰されてしまう。何とか打開しようと背後にできたスペースをスピードのある⑭松尾や⑨有田が飛び出す粘り強くDFラインが対

応しチャンスを作らせない。後半に入ると再び流通経済大学附属柏がペースを握り、⑳丹沢や㉑宮本がサイドにボールを展開し、チャンスを出す。市立船橋は㉒福元にボールを供給したいが、㉓関川がマンマークをして全く仕事をさせない。流通経済大学附属柏の前線のプレッシャーが素晴らしく、市立船橋の3バックが出しどころを探す時間が多くなり、なかなか前にボールを運べなくなる。残り10分になると㉔福元の下に㉕杉山、㉖郡司を置きロングボールやロングスローで迫力のある攻撃を見せるが、ボールホルダーに対して厳しいプレッシャーをかけた流通経済大学附属柏が粘り強く対応し、凌ぎ切り勝利を収めた。互いに絶対に負けたくないという意地と意地のぶつかり合う白熱した好ゲームであった。

(県立船橋啓明高等学校 上芝 俊介)